

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第2期木更津市まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

千葉県木更津市

3 地域再生計画の区域

千葉県木更津市の全域

4 地域再生計画の目標

本市の総人口は、2005年に122,234人となって以降増加が続き、住民基本台帳によると2022年には135,767人となっている。国立社会保障・人口問題研究所によると、2030年の139,056人をピークとして減少に転じ、2045年には135,220人となる見込みである。

年齢3区分別の人口動態をみると、年少人口（0～14歳）は2013年の17,991人をピークに減少し、2022年には17,166人となる一方、老年人口（65歳以上）は2012年の29,994人から2022年には38,051人と増加の一途をたどっており、少子高齢化がさらに進むことが想定されている。また、生産年齢人口（15～64歳）も2013年の82,156人をピークに減少傾向にあり、2022年には80,550人となっている。

自然動態をみると、出生数は1993年の1162人をピークに減少し、2022年には952人となっている。その一方で、死亡数は2022年には1,652人と増加の一途をたどっており、出生者数から死亡者数を差し引いた自然増減は▲700人（自然減）となっている。社会動態をみると、社会増が続いており、2022年では転入数6,388人に対して転出数5,432人で956人の社会増となっているものの、ピーク時の2009年の1,319人と比較すると、減少している。このような状況や社会情勢等を踏まえると、人口の伸びの鈍化が進み、近い将来、減少に転じることが危惧される。

今後も人口減少や少子高齢化が進むことで、労働力不足、税収の伸び悩みや社会保障費の増大、地域経済の停滞等が懸念される。

これらの課題に対応するため、里山・里海に触れる多様なライフスタイルを実現できるまちとして、住みやすさ・暮らしやすさの向上を図るとともに、交流・関係人口や移住・定住人口の増加に資する取組を推進することによって自然増につなげ、社会減に歯止めをかける。

なお、これらに取組むに当たっては、次の事項を基本目標に掲げ、目標の達成を図る。

- ・基本目標 1 地域一体となって、未来を担う「木更津っ子」を育む
- ・基本目標 2 多様な地域資源の循環によって、地域経済を活性化させる
- ・基本目標 3 自然との共生をかなえる、アクアラインを活かした定住・交流を推進する
- ・基本目標 4 市民力・地域力を高め、持続可能な自立するまちを構築する

【数値目標】

5-2の ①に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	出生数	948人	974人	基本目標 1
	幼年期（0歳～4歳）の人口 社会増	102人	166人	
	市内の小学校1年生の児童 数	1,194人	1,194人	
イ	「らづーBiz」の支援を受けて新規創業した件数【累計】	69件	85件	基本目標 2
	有効求人倍率	1.22倍	1.46倍	
ウ	人口の社会増	721人	1,186人	基本目標 3
	年間観光客入込客数（大規模	1,445千人	1,641千人	

	集客施設を除く)			
エ	木更津市に愛着や誇りを感じている人の割合	78.7%	84.4%	基本目標 4
	災害対策コーディネーター養成講座受講者数【累計】	261人	318人	
	認知症サポーター養成講座受講数【累計】	11,090人	12,295人	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

第2期木更津市まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 地域一体となって、未来を担う「木更津っ子」を育む事業

イ 多様な地域資源の循環によって、地域経済を活性化させる事業

ウ 自然との共生をかなえる、アクアラインを活かした定住・交流を推進する事業

エ 市民力・地域力を高め、持続可能な自立するまちを構築する事業

② 事業の内容

ア 地域一体となって、未来を担う「木更津っ子」を育む事業

活力あふれる持続可能な未来の担い手の創造に向けて、結婚・妊娠・出産から子育てにわたる切れ目のない支援を行い、子どもを安心して産み育てられる環境づくりに取り組み、少子化の流れに歯止めをかける事業、本市の特色ある教育環境や地域資源を活かし、地域一体となって郷土愛あふれる「木更津っ子」を育む事業

【具体的な事業】

- ・結婚・出産・子育ての切れ目のない支援
- ・働きながら産み育てやすい環境づくり
- ・「木更津っ子」を育む教育の充実 等

イ 多様な地域資源の循環によって、地域経済を活性化させる事業

活力あふれる持続可能な地域経済の活性化に向けて、有機野菜等の高付加価値農産物の生産促進や地産地消等を通じた地域内循環に取り組む事業、観光地域づくり法人（きさらづDMO）と連携し、本市の魅力に磨きをかけ、さらには「新しい日常」の視点を取り入れた人を呼び込む観光コンテンツの充実を図る事業、産業・創業支援センター「らぶーBiz」を拠点とした事業者への包括的な支援を行うとともに、電子地域通貨「アクアコイン」の更なる普及や企業誘致の推進等により、産業の活性化を図り、地域経済の循環を高め、地域の「稼ぐ力」を引き出し、安定した雇用を創出する事業

【具体的な事業】

- ・農林水産業の成長産業化への支援
- ・産業・創業及び地域産業の持続的成長に対する支援
- ・企業誘致の推進
- ・観光産業の競争力強化
- ・安定した雇用の確保 等

ウ 自然との共生をかなえる、アクアラインを活かした定住・交流を促進する事業

地理的優位性や地域資源等を活かし、多様なライフスタイルを実現できるまちとして市内外の方々の交流の機会を充実させ、関係人口の創出・拡大を図り、移住・定住の推進につなげていく事業

【具体的な事業】

- ・多様なライフスタイルがかなう定住の推進
- ・快適で暮らしやすいコンパクトなまちの形成
- ・木更津の様々な魅力の情報発信の強化
- ・アクアライン等を活かした交流人口の創出

- ・多様な地域資源を活かした関係人口の創出 等

エ 市民力・地域力を高め、持続可能な自立するまちを構築する事業

持続可能な自立するまち木更津の創造に向けて、市民力・地域力を活かしたまちづくりへの支援の充実や地域が主体となった新たな交通システムの導入・安定的な運行体制の構築を図る事業、マイナンバーカードやＩＣＴの利活用により、市民サービスの向上を図る事業、災害に強いまちづくりや支え合う地域社会の構築に取り組むとともに、誇りある「ふるさと木更津」の豊かな自然環境を守り、共生し、生涯にわたって活躍し、心身ともに健康で生き生きと暮らすことができる地域づくりを推進する事業

【具体的な事業】

- ・市民力・地域力による自立した地域づくり
- ・生物多様性を育む自然との共生
- ・生涯を通じて健康で生き生きと暮らせる地域づくり
- ・ふるさと木更津づくり
- ・安心して暮らしやすい防災都市づくり
- ・多様な主体との連携推進
- ・ＤＸ推進による住みよいまちづくり 等

※なお、詳細は第３期木更津市まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（ＫＰＩ））

４の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

5,680,000 千円（2023 年度～2024 年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（ＰＤＣＡサイクル）

毎年度５月頃を目安に、外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかに本市公式ＷＥＢサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

2023 年４月１日から 2025 年３月 31 日まで

6 計画期間

地域再生計画認定の日から 2025 年 3 月 31 日まで